

For Advanced DTP users

upftcnv
USERS MANUAL

株式会社ユニテクス・ジャパン

まえがき

本書は、upftcnv（UPFスルーモードコード変換ツール）について記述したものです。
本マニュアルは、当社製品のSuperLayout（スーパーレイアウト）で編集し、印刷したものです。

* 本書中の社名や製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

ご注意

本書は著作権法の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、株式会社ユニテクス・ジャパンから文書による承諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

弊社はお客様の機器運用に関するいかなる損害の責任も負いません。

目 次

1	概要	1
2	使用方法	2
2.1	コマンドの起動	2
2.2	入力ファイル	2
2.3	出力ファイル	2
3	処理例	3
3.1	ファイル指定	3
3.2	リダイレクション	3
3.3	パイプ	3

概要

upftcnvは、入力テキストデータを解析し、記述されたプリンタ制御コードを、スルーモード出力データとしてUPFが認識可能な形態へ変換出力するツールです。

- 制限事項)
- ・ESCコード (0x1B) 又はFSコード (0x1C) の有無を1行単位に判定し、該当コードの存在する行全体をスルーモードデータに変換します。従いまして該当行では漢字を使用できません。
 - ・現バージョンではESCコード解析を行っておりません。そのためESCコード中の0x0aを改行と誤認識してしまいます。ESCコード中に0x0aコードが含まれる (イメージやユーザー定義文字等一部のESC/P制御コマンド) 場合正常に変換できません。

使用方法

2.1 コマンドの起動 `ufptcnv`の起動は、以下のように行います。

書式 `ufptcnv [-i 入力ファイル名] [-o 出力ファイル名]`

2.2 入力ファイル 入力ファイルを指定します。ここで指定したファイルから入力したプリンタ制御コードを含むテキストをスルーモードを使用したデータに変換します。

書式 `-i 入力ファイル名`

初期値 標準入力となります。

2.3 出力ファイル 出力ファイルを指定します。ここで指定したファイルへプリンタ制御コードを含むテキストをスルーモードを使用したデータに変換されたデータが出力されます。

書式 `-o 出力ファイル名`

初期値 標準出力となります。

処理例

ここではプリンターの代表例としてLIPS4を示しますが、他プリンタでも同様ですのでご使用になられるプリンタ・フィルタに読み替えてください。
また入力ファイルのテキストコードは、Shift-JISとします。

upfの引数について

```
-fm 1 ; スルーモード有効
-fc 1 ; 入力コード: Shift-JIS
```

3.1 ファイル指定

アプリケーションが保存したプリンタ制御コードを含むテキストデータファイルを入力ファイルとして直接指定し、UPFを経由した印刷を行います。

例 `upftcnv -i 入力ファイル | upfclips4tf -fm 1 -fc 1 | lp -d LIPS4プリンタ名`

3.2 リダイレクション

アプリケーションが保存したプリンタ制御コードを含むテキストデータファイルをupftcnvへリダイレクションし、UPFを経由した印刷を行います。

例 `upftcnv < 入力ファイル | upfclips4tf -fm 1 -fc 1 | lp -d LIPS4プリンタ名`

3.3 パイプ

アプリケーション (userapp) からのプリンタ制御コードを含むテキストデータ出力を直接upftcnvの入力とし、UPFを経由した印刷を行います。

例 `userapp | upftcnv | upfclips4tf -fm 1 -fc 1 | lp -d LIPS4プリンタ名`

